



トラックスケール

無線式トラックスケール

騒音・振動測定器

有害ガス検知器

水質・塩分濃度

粉じん・風速・気象観測

土質・生コン試験機・水分計

厚さ・膜厚・管内カメラ・内視鏡

鉄筋探査・コンクリート試験

引張試験機・トルクレンチ

その他非破壊検査

トラックスケール・はかり・強力計

電気計測器

その他計測器

通信関連機器

映像情報機器

安全管理機器

システム管理機器

測量関連機器

資料

無線式トラックスケール

JUMBO MAX SJ2-10M

メーカー 守随本店

測定項目 車両の重さ



商品コード	備考
RB5 1001U 003	

印字例

Date : 13/10/2015	12:10
SN : 1234	
Number : ABC1234	
Mode : Static	
Total : 7810kg	
Tare : 3650kg	
Net : 4160kg	
Driver :	
Inspector :	

印刷項目

各項目について印刷する・しないをオン・オフで選択できます。

- ・日付・時間
- ・SN (シリアル番号)
- ・測定モード
- ・Total 重量
- ・Tare 重量
- ・Net 重量
- ・ドライバー
- ・検査者

使用上のご注意

- ・測定精度に関して、実際のフィールドでは、カタログスペックを確保できないことがあります。
- ・前後輪の高さを揃えないと大きく誤差が生じます。
- ・アスファルトなど、硬く平らな地面上でご利用ください。

検出部～指示部間が無線タイプの車輛重量計です。(10LMUの後継機です。)測定結果は印字することができ、USBメモリにもデータが保存できます。(CSV形式)車両の登録が可能で、1回目と2回目の重量の差異を出すことができます。

型式	JUMBO MAX SJ2-10M	
呼称	検出部：ALW-900F	指示計部：ALWI-1F
構成台数	2台	1台
ひょう量	10t (1PADあたり)	—
最小ひょう量(目量)	10kg	—
最大ひょう量	80t (最大8軸測定時)	—
計量方式	静止計量・走行計量	
安全過荷重	ひょう量の150%	
登録機能	—	車番、滞留車登録 (999台まで可能)
外部出力	—	RS-232C、USBホスト、外部入力1&出力3
無線通信可能距離*	—	最大約100m (障害なき場合)
電源	リチウムイオンバッテリー	
電池寿命	最大約500時間	最大約80時間
使用温度	-10～40℃	
寸法(W×D×H)	1,050×500×43mm	296×212×96mm
載台部寸法(W×D×H)	900×500×33mm	—
質量	約26kg (スロープ含まず)	約2.7kg

※通信可能距離は設置場所の環境により多少異なります。

付属品	検出部×2、スロープ×4、本体用充電器、検出部用バッテリー×2 (予備付)、検出部用バッテリー充電器(×2*)、USB、記録紙×1 (予備付)、取扱説明書×3、注意事項説明書、弊社検査成績書
※1or2本付属	
販売品	追加記録紙

無線式トラックスケール

TJRFW2-10LMU

メーカー 守随本店

測定項目 車両の重さ



商品コード	備考
RB5 1001U 001	

印字例

①日時	2009.01.01	14:15
②伝票番号	SN 00017	
③車番	CAR 89615	
④総質量	TOTAL:	7810kg
⑤空車質量	TARE:	3650kg
⑥正味質量	NET:	4150kg

【基本仕様】

検出部～指示部間が無線タイプの車輛重量計です。測定結果は印字することができ、USBメモリにもデータが保存できます。(CSV形式)車両の登録が可能で、1回目と2回目の重量の差異を出すことができます。

型式	TJRFW2-10LMU	
ひょう量	10t (1PADあたり)	
最小単位	10kg	
安全過荷重	ひょう量の150%	
計量方式	静止計量・走行計量	
外部出力	USB・RS-232C	
電源	検出部	再充電式リチウムポリマーバッテリー
	指示計	再充電式鉛バッテリー
電池寿命	検出部	70時間
	指示計	約240時間
寸法(W×D×H)	検出部外形	1,066×840×50mm
	載台部	900×500×34mm
	指示計	270×250×124mm
質量	検出部	約28kg
	指示計	4.5kg

付属品	検出部×2、スロープ×4、助走路×8、本体用充電器、検出部用バッテリー×2 (予備付)、検出部用バッテリー充電器×2、USB、記録紙×1 (予備付)、取扱説明書×2 (簡易取説含む)、取扱の注意事項、弊社検査成績書、基準器校正証明書
-----	--

販売品 追加記録紙

使用上のご注意

- ・設置場所は地盤の固いフラットな場所をお選びください。
- ・三・四軸車などでスプリングリンクを共用している車輛を計量する場合は、必ず助走路を使用して、計量しない側の車輛も高さを合わせるようにしてください。大きな誤差要因となります。